



今回は、傾聴ボランティアさんをご紹介します！

1月発行の「地域医療連携室だより」第4号では、ボランティアさんの話を掲載しましたが、今回は、その中の傾聴ボランティアさんの活動について、ご紹介いたします。

1 傾聴ボランティアってなに？

入院生活をなさっている患者さんは、不安や孤独感の中で、日々過ごされていることかと思えます。そんな時、「病気の話だけではなく、ゆっくり自分の話を聞いてもらいたい。」「楽しい話がしたい。」など感じるときがあるのではないのでしょうか。

傾聴ボランティアは、忙しい医師や医療スタッフに代わり、患者さんのお話し相手となり、ひとときながら少しでも気の晴れる時間を持てるよう、お手伝いをするボランティアのことです。

もちろん誰にでもできる活動ではなく、当院では専門の研修を終了した方をお願いしております。いわば、傾聴のプロの方ということになります。現在は、4名の方が活動中で、5月より5名体制になります。

「お話しすることで元気になってもらいたい」これが基本コンセプトです。



2 意見交換会なども開催し、より良いサービスを提供しています。

先日、傾聴ボランティアの会を開催しました。

当日は、ボランティアの方のほか、看護師、連携室担当職員が会に参加し、いろいろな意見を交換しました。

傾聴は、話を聞くことに徹することが基本ですが、実は簡単そうに見えて、非常にテクニックを必要とするものです。

その道のプロであるボランティアの方も、「もっと話を聞いてあげたかったが、時間が足りないことがある。」「話をしてくれない患者さんもある。」など、どうしたらより良い対応ができるのか、意見を交換することで、最善策を見つけていたようです。

患者さんからは、「話ができて、とても楽しかった。」「気分転換ができて良かった。またお願いしたい。」などの感想が多く、活動も軌道に乗ってきているなど感じています。

ぜひ、傾聴ボランティアを活用してくださいね！

